総務・政策・企業常任委員会資料２
平成２９年（2017年）１０月３日
総　合　政　策　部　広　報　課

「第５０回滋賀県政世論調査」の結果について

１．調査の目的

県政全体に関する満足度と県政の当面する主要課題等をテーマに選び、県民の意識・意向を調査し、今後の県政を進めるうえでの基礎資料とする。

２．調査の概要

(1) 調査対象　　県内在住の満18歳以上の個人
(2) 標本数　　3,000人
(3) 調査方法　　郵送法・オンライン調査法の併用
(4) 調査期間　　平成29年5月30日（火）～　6月20日（火）
(5) 有効回収率　　50.7%（1,522人）　〈H28年度　51.9%（1,557人）〉
※回答者のうち35歳未満は15.1%（昨年度より1.6ポイント増加）

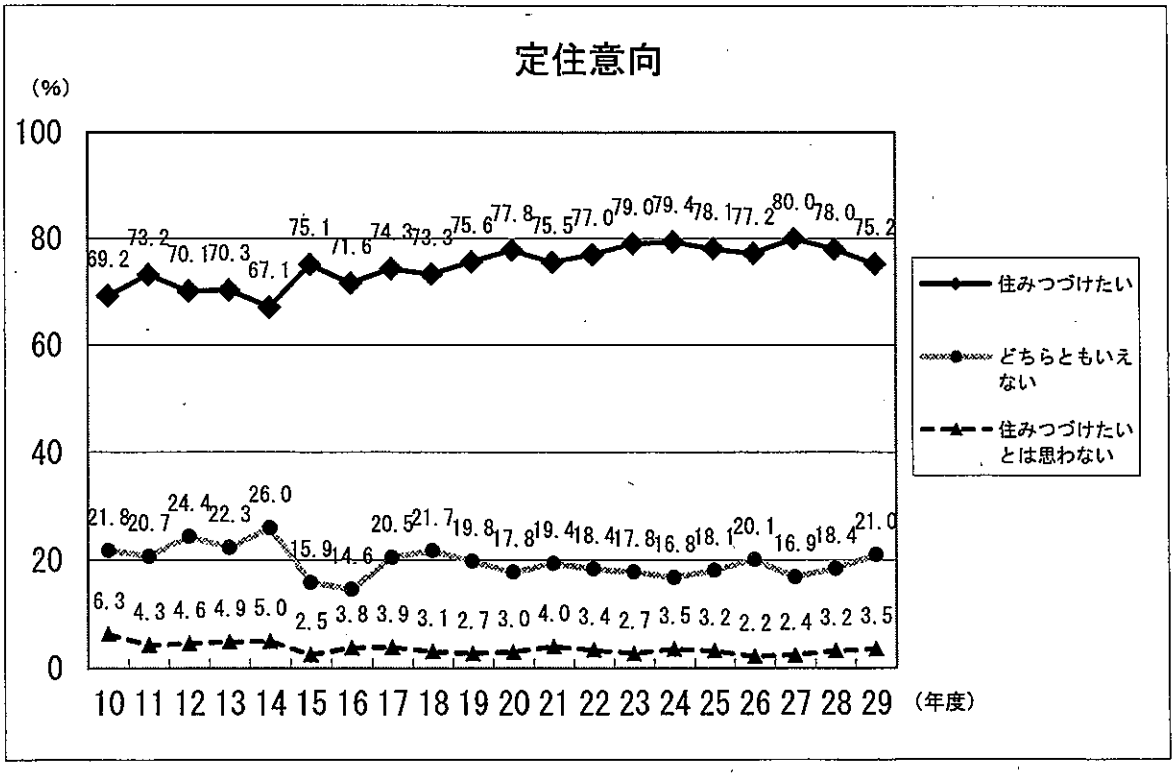
３．調査項目

(1) 県政全体に関する満足度　（企画調整課）
(2) 県の広報・広聴活動（広報課）
(3)「びわ湖の日」について（環境政策課）
(4) 高齢期の生活・活動と介護について（医療福祉推進課）

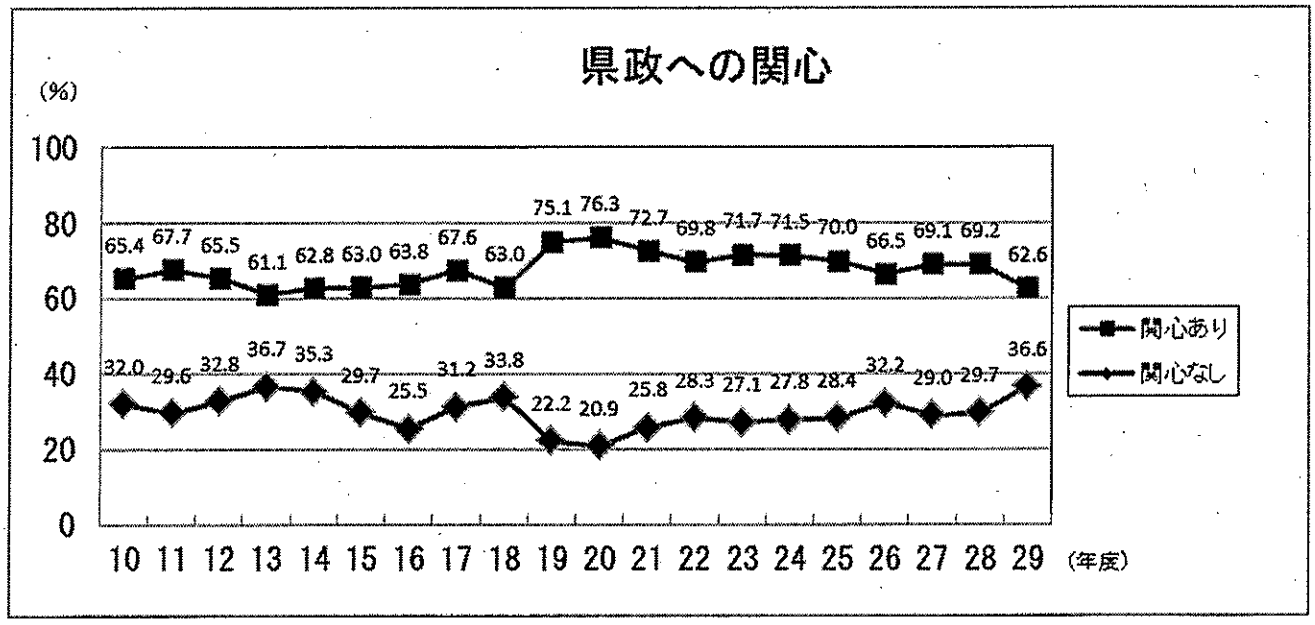
４．主な調査結果

(1) 県政全体に関する満足度　報告書P9～

・定住意向では、これからも滋賀県に「住みつづけたい」が75.2%で、平成28年度の78.0%をやや下回り、２年連続の低下となったが、引き続き高い値となった。【別表１】



・県政への関心度では、『関心あり』が 62.6%、『関心なし』が 36.6%で、近年では最も関心のある人が少ないという結果になっている。性別では男性の方が関心が高く、年齢別では、年齢が高いほど高い傾向となっている。【別表２】



・県の施策に対する『満足度』では、「ビワイチをはじめとする観光施策や首都圏での情報発信など滋賀の魅力の向上のための施策」が 30.1%で最も高く、次いで「安全で安心して暮らすための自治会など住民が中心となった防災や防犯対策の推進」が 30.0%となった。一方、『不満度』では、「鉄道・バス等の利便性向上など公共交通を使いやすいまちづくり」が 53.9%で最も高く、次いで「次世代の雇用につながる新たな産業の創出」が 33.1%となった。【別表３、４】

・力を入れてほしい県の施策では、「結婚・出産・子育てまでの切れ目のない支援や社会全体で子どもを安全・安心に生み育てることができる環境づくり」が 36.5%で最も高く、次いで「若者、女性、中高年者、障害者が滋賀で働き、活躍できるための取組」が 35.4%、「鉄道・バス等の利便性向上など公共交通を使いやすいまちづくり」が 31.4%、「子どもの育ちを支える滋賀ならではの教育環境づくり」が 27.7%となった。【別表５】

(2) 県の広報・広聴活動　報告書 P46～

・県の広聴活動への要望では、「インターネット・手紙・FAX などによる意見等の募集」が 45.2%で最も高く、次いで「知事や県職員が県民の皆さんと直接対話を行う機会の提供」が 37.5%となった。性・年代別でみると、若い世代は「インターネット・手紙・FAX などによる意見等の募集」への要望が高く、高齢者層では「知事や県職員が県民の皆さんと直接対話を行う機会の提供」への要望が高くなっている。直近、３年間の調査結果でもこれらの要望は高く、引き続き、様々な方法により、誰もが気軽に県へご意見・ご提案を伝えていただけるよう、引き続き取り組んでいく必要がある。

・県施策等の情報の入手方法では、「広報誌「滋賀プラスワン」」が 60.6%で最も高く、次いで「テレビ」が 55.3%、「新聞」が 50.9%となっている。これらのことから、広報誌のさらなる内容の充実とプレスへの的確な対応、県民のニーズを反映した情報提供の必要性が高いといえる。

・県の広報の認知度では、「広報誌「滋賀プラスワン」」が『閲読率』60.2%、『認知率』85.9%で最も高く、次いで「県議会広報紙「滋賀県議会だより」」が『閲読率』32.0%、『認知率』74.3%となっている。一方、「滋賀県公式ホームページ」と「テレビ番組「テレビ滋賀プラスワン」の『認知率』は、それぞれ66.8%、66.3%と高いが、『閲読率』は11.0%、16.6%とその差が大きく、認知はされているものの視聴に結びつきにくい傾向がうかがえる。【別表６】

(3) 「びわ湖の日」　報告書P80～

・「びわ湖の日」の認知度では、「知っている」が59.4%で、認知度は約６割となっている。
・「びわ湖の日」を休日としようとすることでは、『賛成』が52.0%、『反対』が29.9%で、賛成が上回っている。
・各団体が「びわ湖の日」を休日にすることでは、学校・民間企業では『賛成』が『反対』を上回っているが、行政機関では『反対』が『賛成』を上回っている。
・日頃、環境保全行動を行っているかでは、『行っている』が71.1%と、前年度よりも増加している。性・年代別でみると、女性の35～64歳で『行っている』が８割を超えており、環境保全への意識が高い。

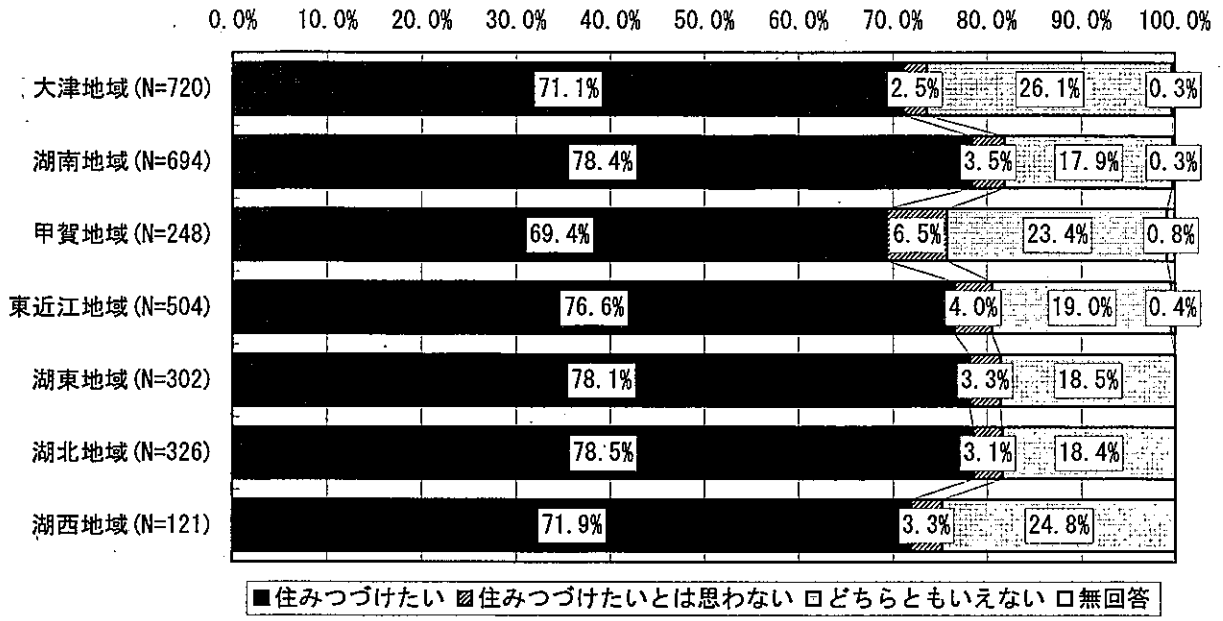
(4) 「高齢期の生活・活動と介護」　報告書P98～

・高齢期に取り組みたい活動では、「趣味・娯楽の活動」が70.2%で最も多く、次いで「スポーツ・健康・レクリエーションの活動」が38.6%、「仕事」が29.3%となっている。平成22年度調査と比べると、「仕事」の割合が上昇している。
・家族の介護の経験では、「介護をしたことがない」が51.3%で最も多くなっている。なんらかの形で介護をした経験のある人は44.1%となっている。性別では、自分が主になって介護を経験したことがある人は女性が多い。
・家族を介護するために充実してほしい支援制度では、「保険料や利用料の軽減」が49.0%で最も多く、次いで「施設待機解消のための施設整備」が37.9%、「24時間対応の在宅サービス」が33.2%となっている。年齢層が高いほど「施設待機解消のための施設整備」が多い傾向がある。
・認知症施策について充実してほしいことでは、「認知症の人を初期から支援できる、医療や介護の専門職によるチーム体制の充実」が50.1%で最も多く、次いで「認知症の相談窓口や診断ができる医療機関の周知」が38.8%、「認知症予防対策の取組（予防教室、体操やサロンなどの通いの場づくりなど)」が36.8%、「地域で認知症の人を支えるための介護サービスや人材の育成」が36.2%などとなっている。

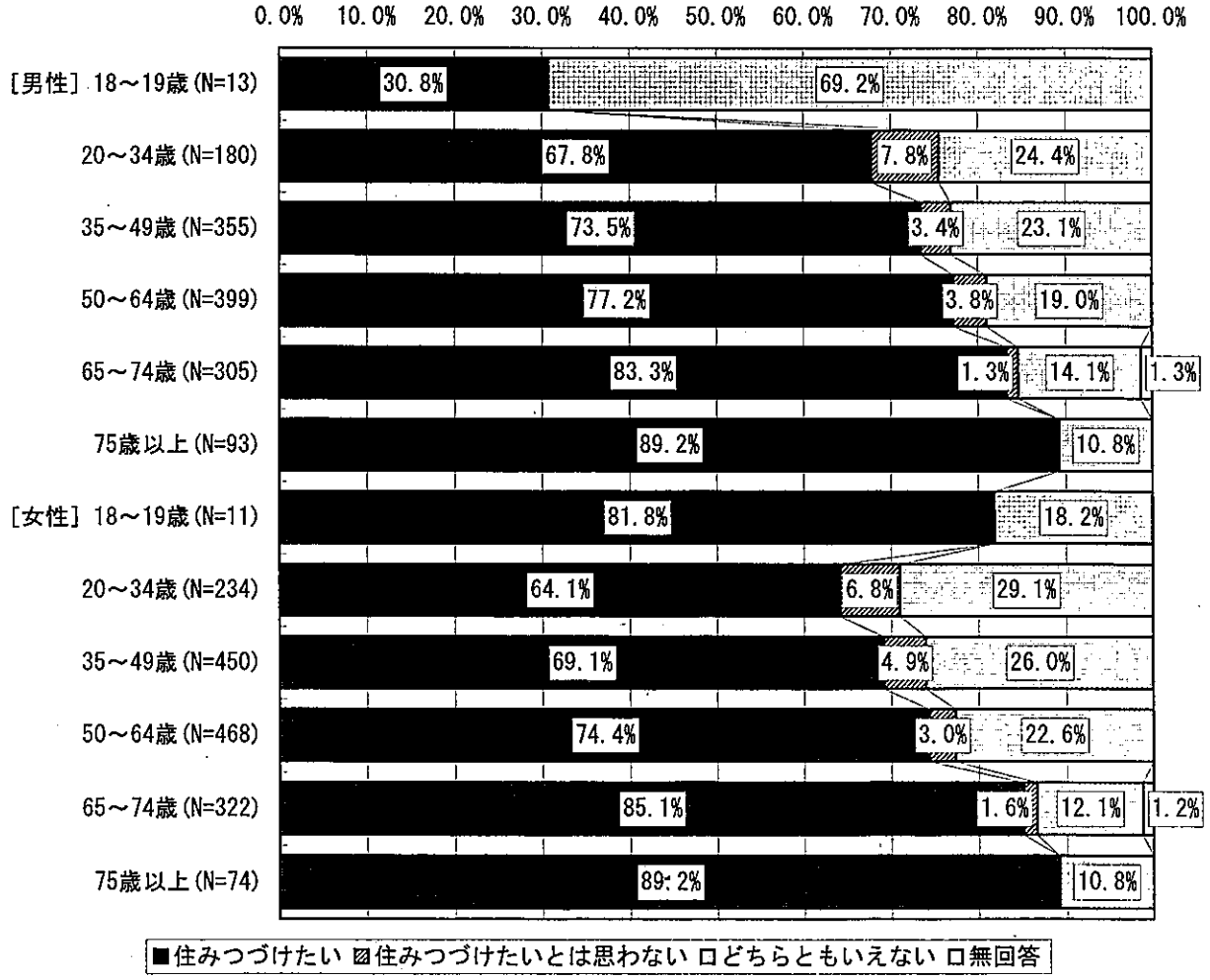
滋賀県への定住意向

【別表１】

（地域別）

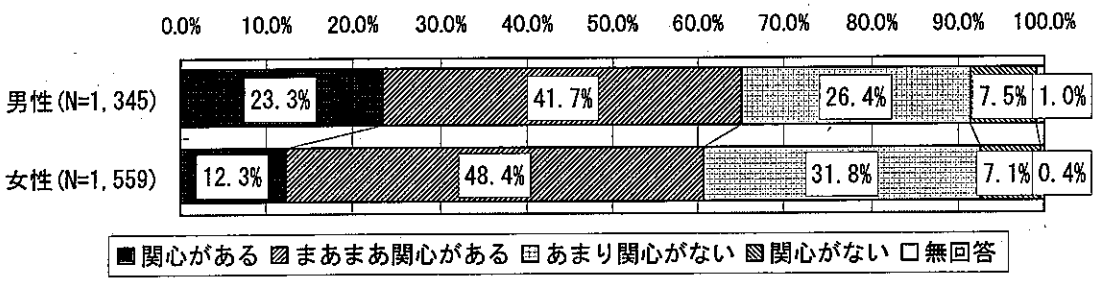


（性・年代別）

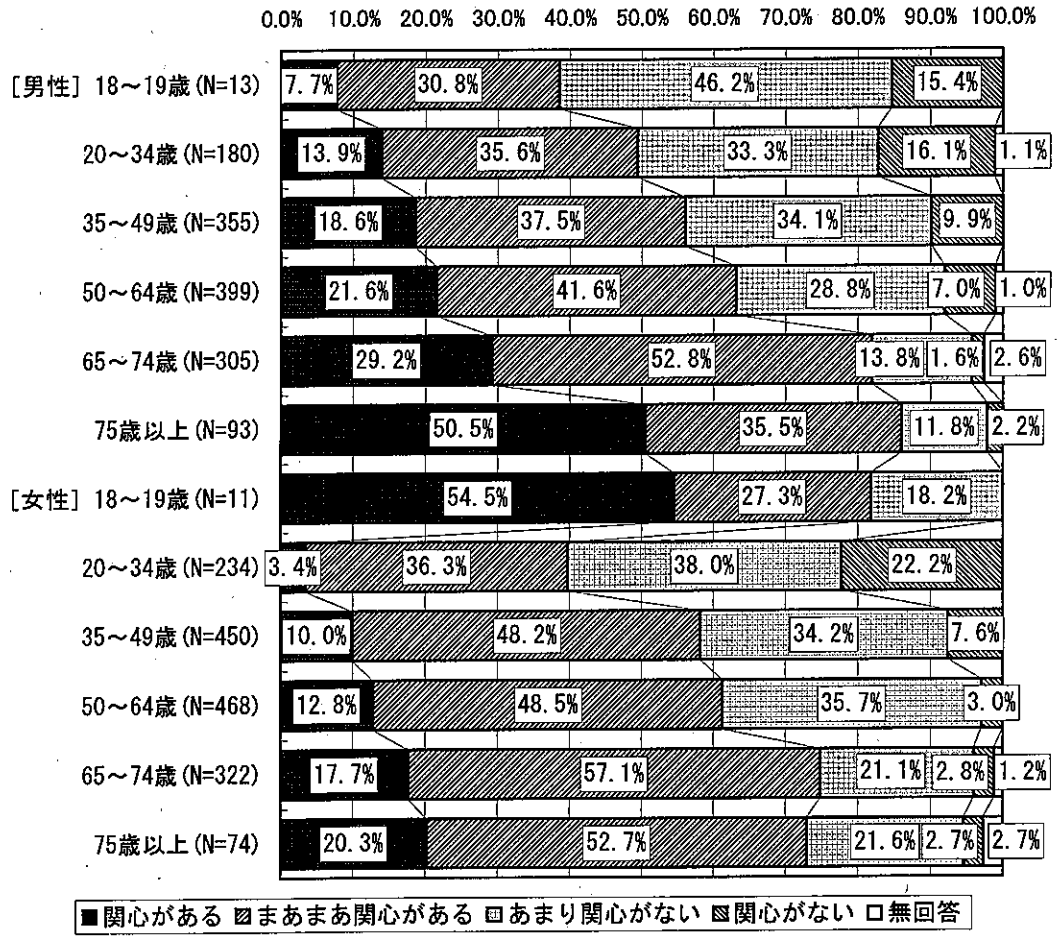


県政への関心（性・年代別）

【別表２】



	『関心あり』	『関心なし』
男性(N=1,345)	65.1%	33.9%
女性(N=1,559)	60.7%	38.9%

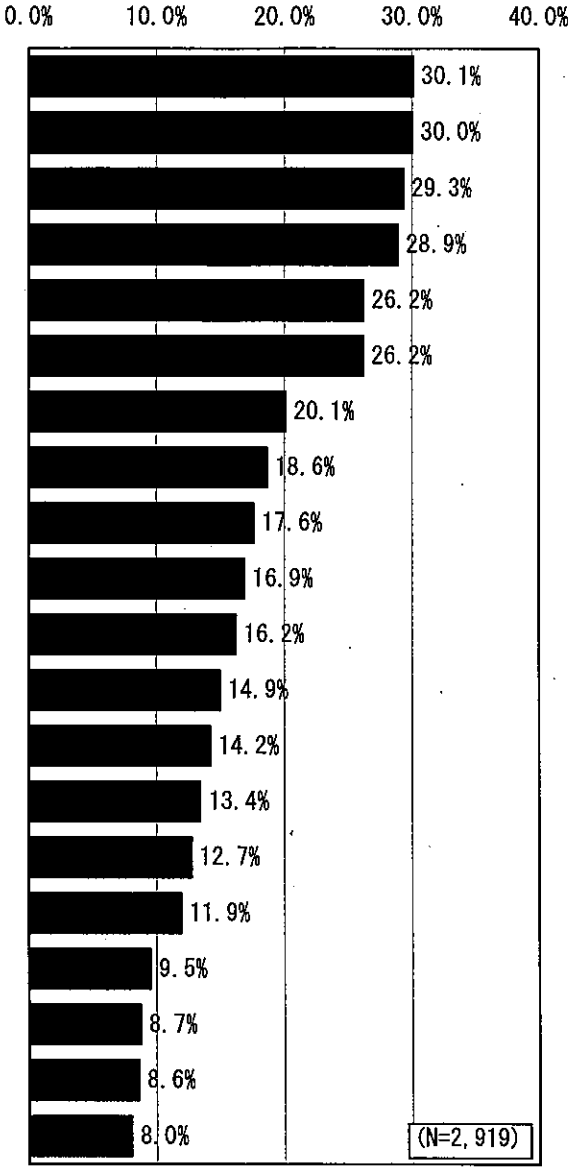


	『関心あり』	『関心なし』
［男性］18～19歳(N=13)	38.5%	61.5%
20～34歳(N=180)	49.4%	49.4%
35～49歳(N=355)	56.1%	43.9%
50～64歳(N=399)	63.2%	35.8%
65～74歳(N=305)	82.0%	15.4%
75歳以上(N=93)	86.0%	14.0%
［女性］18～19歳(N=11)	81.8%	18.2%
20～34歳(N=234)	39.7%	60.3%
35～49歳(N=450)	58.2%	41.8%
50～64歳(N=468)	61.3%	38.7%
65～74歳(N=322)	74.8%	23.9%
75歳以上(N=74)	73.0%	24.3%

満足度（「満足」＋「どちらかといえば満足」と回答した割合）の高い施策　【別表３】

満足度

番号	施策
8	ビワイチをはじめとする観光施策や首都圏での情報発信など滋賀の魅力の向上のための施策
16	安全で安心して暮らすための自治会など住民が中心となった防災や防犯対策の推進
1	結婚・出産・子育てまでの切れ目のない支援や社会全体で子どもを安全・安心に生み育てることができる環境づくり
17	在来魚介類の回復や生態系の保全・再生など琵琶湖流域の保全・再生に向けた取組
3	琵琶湖の経験を活かした産学官民連携による滋賀の水環境ビジネスの推進
2	子どもの育ちを支える滋賀ならではの教育環境づくり
14	地域・拠点間の連携確保や誰もが利用しやすい道路空間づくり
7	豊かな自然など滋賀の魅力ある暮らしぶりを県外に広くＰＲするなどの移住施策
9	高齢者に地域の担い手として活躍してもらうための取組や健康長寿を実現するための取組
19	子育て世帯のための空き家リノベーションや公園・緑地の整備などゆとりある生活環境づくり
20	全ての人がひとの絆と支え合いで安心して生活し、居場所と出番を持つことができる地域づくり
15	鉄道・バス等の利便性向上など公共交通を使いやすいまちづくり
6	若者、女性、中高年者、障害者が滋賀で働き、活躍できるための取組
12	災害リスクに備えた安全・安心を実現するための県土づくり（インフラ整備）
18	「世界農業遺産」の認定に向けた取組など、琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業を健全な姿で次世代に引き継ぐ施策
10	再生可能エネルギーの活用など新しいエネルギー社会づくりや低炭素社会への転換
11	2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた滋賀の文化の魅力発信やスポーツに親しむための環境づくり
5	滋賀の産業を支える人材の育成や滋賀で働く優秀な人材確保の取組
13	地域資源を活かした魅力的な仕事づくりや6次産業化の推進などによる力強い農林水産業、魅力ある農山漁村をつくるための取組
4	次世代の雇用につながる新たな産業の創出



（参考）H28

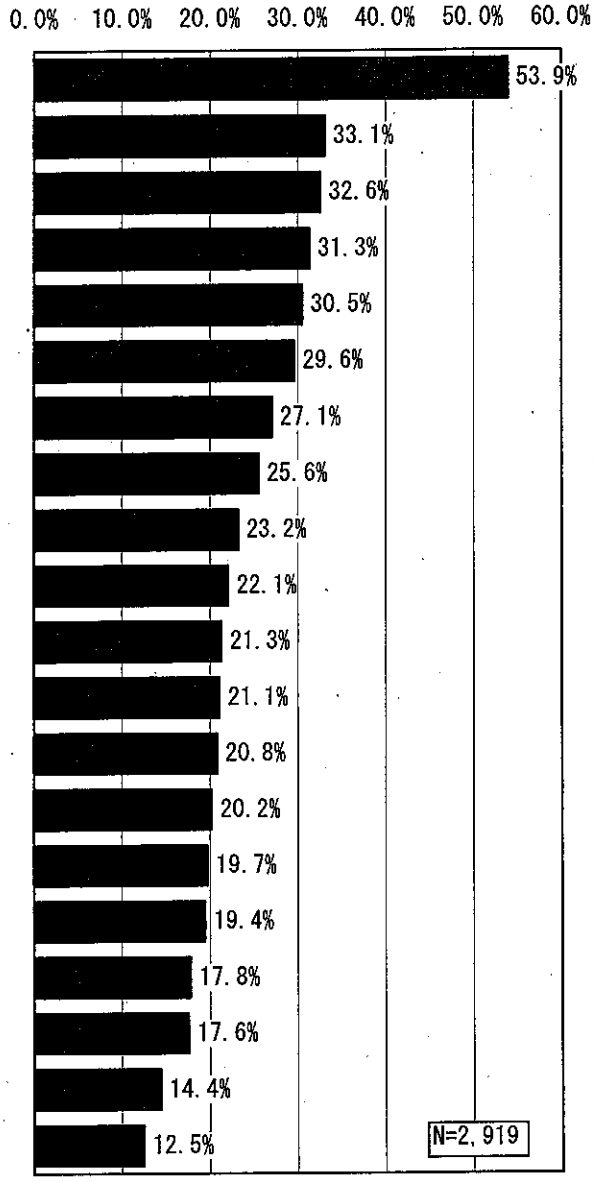
①	身近なところで自然と触れ合える環境の整備	42.5%
②	食の安全確保	37.8%
③	美しい田園や緑豊かな森林の維持	34.1%
④	道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理	28.8%
⑤	文化やスポーツを楽しめるまちづくり	27.9%

不満度（「どちらかといえば不満」＋「不満」と回答した割合）の高い施策

【別表４】

不満度

番号	施策
15	鉄道・バス等の利便性向上など公共交通を使いやすいまちづくり
4	次世代の雇用につながる新たな産業の創出
6	若者、女性、中高年者、障害者が滋賀で働き、活躍できるための取組
14	地域・拠点間の連携確保や誰もが利用しやすい道路空間づくり
5	滋賀の産業を支える人材の育成や滋賀で働く優秀な人材確保の取組
12	災害リスクに備えた安全・安心を実現するための県土づくり（インフラ整備）
19	子育て世帯のための空き家リノベーションや公園・緑地の整備などゆとりある生活環境づくり
7	豊かな自然など滋賀の魅力ある暮らしぶりを県外に広くＰＲするなどの移住施策
13	地域資源を活かした魅力的な仕事づくりや6次産業化の推進などによる力強い農林水産業、魅力ある農山漁村をつくるための取組
11	2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた滋賀の文化の魅力発信やスポーツに親しむための環境づくり
20	全ての人がひとの絆と支え合いで安心して生活し、居場所と出番を持つことができる地域づくり
9	高齢者に地域の担い手として活躍してもらうための取組や健康長寿を実現するための取組
8	ビワイチをはじめとする観光施策や首都圏での情報発信など滋賀の魅力の向上のための施策
17	在来魚介類の回復や生態系の保全・再生など琵琶湖流域の保全・再生に向けた取組
16	安全で安心して暮らすための自治会など住民が中心となった防災や防犯対策の推進
10	再生可能エネルギーの活用など新しいエネルギー社会づくりや低炭素社会への転換
2	子どもの育ちを支える滋賀ならではの教育環境づくり
1	結婚・出産・子育てまでの切れ目のない支援や社会全体で子どもを安全・安心に生み育てることができる環境づくり
18	「世界農業遺産」の認定に向けた取組など、琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業を健全な姿で次世代に引き継ぐ施策
3	琵琶湖の経験を活かした産学官民連携による滋賀の水環境ビジネスの推進



（参考）H28

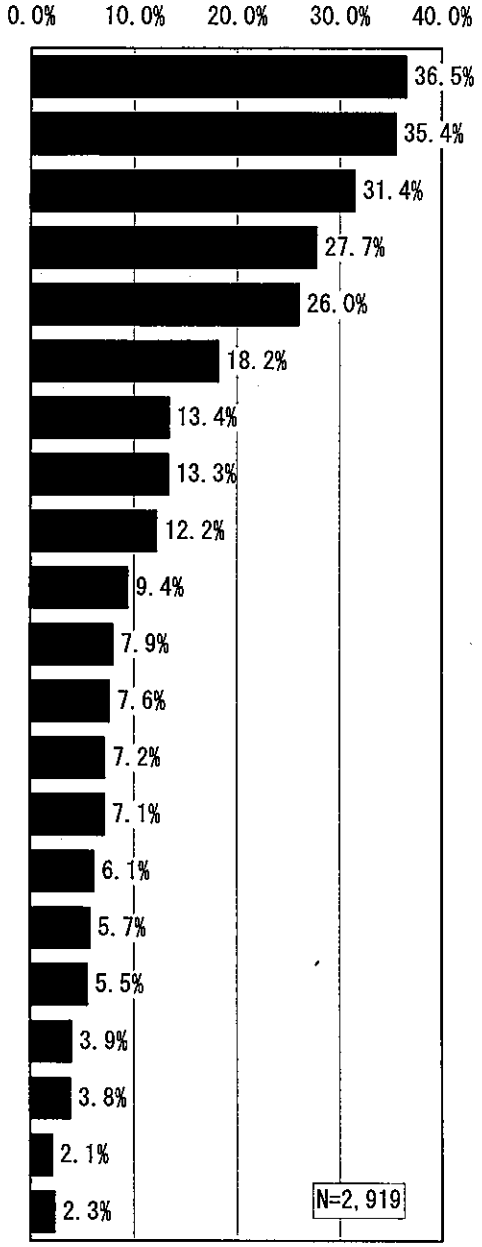
①	自転車歩行者道や身近な公共交通機関などの整備	50.5%
②	地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	34.1%
③	人やものが行き交う広域交通ネットワークの形成	32.8%
④	在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	31.7%
⑤	歴史や文化、自然などの地域資源を活かした観光の振興と滋賀のブランド力の向上	31.5%

力を入れてほしい県の施策

【別表５】

［３つ以内で複数回答］

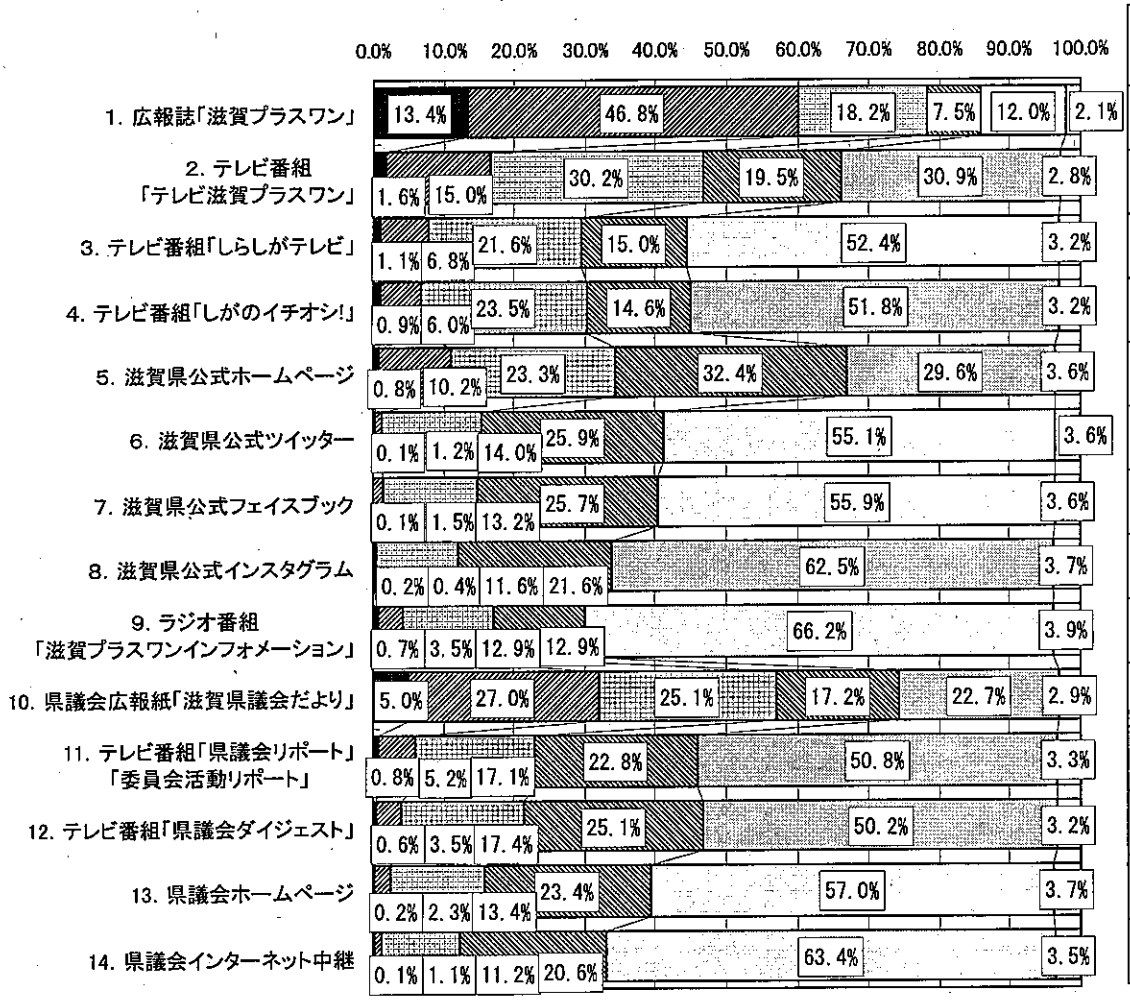
番号	施策
1	結婚・出産・子育てまでの切れ目のない支援や社会全体で子どもを安全・安心に生み育てることができる環境づくり
6	若者、女性、中高年者、障害者が滋賀で働き、活躍できるための取組
15	鉄道・バス等の利便性向上など公共交通を使いやすいまちづくり
2	子どもの育ちを支える滋賀ならではの教育環境づくり
4	次世代の雇用につながる新たな産業の創出
12	災害リスクに備えた安全・安心を実現するための県土づくり（インフラ整備）
5	滋賀の産業を支える人材の育成や滋賀で働く優秀な人材確保の取組
20	全ての人がひとの絆と支え合いで安心して生活し、居場所と出番を持つことができる地域づくり
9	高齢者に地域の担い手として活躍してもらうための取組や健康長寿を実現するための取組
19	子育て世帯のための空き家リノベーションや公園・緑地の整備などゆとりある生活環境づくり
14	地域・拠点間の連携確保や誰もが利用しやすい道路空間づくり
16	安全で安心して暮らすための自治会など住民が中心となった防災や防犯対策の推進
3	琵琶湖の経験を活かした産学官民連携による滋賀の水環境ビジネスの推進
17	在来魚介類の回復や生態系の保全・再生など琵琶湖流域の保全・再生に向けた取組
8	ビワイチをはじめとする観光施策や首都圏での情報発信など滋賀の魅力の向上のための施策
10	再生可能エネルギーの活用など新しいエネルギー社会づくりや低炭素社会への転換
7	豊かな自然など滋賀の魅力ある暮らしぶりを県外に広くPRするなどの移住施策
13	地域資源を活かした魅力的な仕事づくりや6次産業化の推進などによる力強い農林水産業、魅力ある農山漁村をつくるための取組
11	2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた滋賀の文化の魅力発信やスポーツに親しむための環境づくり
18	「世界農業遺産」の認定に向けた取組など、琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業を健全な姿で次世代に引き継ぐ施策
	不明・無回答



県の広報の『閲読・視聴・聴取率』と『認知率』

【別表６】

※『閲読・視聴・聴取率』：
「いつもかかさず読んだり、見たり、聴いたりしている」と
「読んだり、見たり、聴いたりしている」の合計
※『認知率』：
『閲読・視聴・聴取率』と
「あまり読んだり、見たり、聴いたりしない」と
「知っているが、読んだり、見たり、聴いたりしたことがない」の合計



	『閲読・視聴・聴取率』	『認知率』
1. 広報誌「滋賀プラスワン」	60.2%	85.9%
2. テレビ番組「テレビ滋賀プラスワン」	16.6%	66.3%
3. テレビ番組「しらしがテレビ」	7.9%	44.4%
4. テレビ番組「しがのイチオシ!」	6.9%	45.0%
5. 滋賀県公式ホームページ	11.0%	66.8%
6. 滋賀県公式ツイッター	1.3%	41.3%
7. 滋賀県公式フェイスブック	1.6%	40.5%
8. 滋賀県公式インスタグラム	0.6%	33.7%
9. ラジオ番組「滋賀プラスワンインフォメーション」	4.2%	30.0%
10. 県議会広報紙「滋賀県議会だより」	32.0%	74.3%
11. テレビ番組「県議会リポート」「委員会活動リポート」	6.0%	45.9%
12. テレビ番組「県議会ダイジェスト」	4.0%	46.6%
13. 県議会ホームページ	2.5%	39.3%
14. 県議会インターネット中継	1.2%	33.0%